

情報通信審議会 情報通信技術分科会 産学官連携強化委員会
重点課題WG（第8回）議事概要

1 日 時 平成22年7月22日（木） 16時00分～18時00分

2 場 所 総務省8階 第4特別会議室

3 出席者（敬称略）

構成員

森川博之（主任）、宇野嘉修、冲中秀夫（代理：田中寛）、勝部泰弘（代理：鎌形英二）、加納敏行、木下進、関口潔（代理：岡田裕二）、谷口浩一、富永昌彦、西村信治、端山聡、横井正紀（代理：中林優介）

事務局

奥英之（技術政策課長）、山内智生（同課研究推進室長）、藤田和重（同課企画官）、杵浦維勝（同課課長補佐）、他

4 議事要旨

（1）研究開発ロードマップについて

事務局より、重-8-1及び重-8-2に沿って、各重点研究開発プロジェクトの概要及び研究開発ロードマップについて説明があった。

（2）ディスカッション

（1）の説明を踏まえ、ディスカッションとなった。主な議論は以下のとおり。

森川主任 : 「イノベーション創出型脳情報通信基盤技術プロジェクト」の④の技術は「ポストIPネットワークプロジェクト」に入るのではないかと。

事務局 : 「ポストIPネットワークプロジェクト」に入れても良いのだが、整理学上、脳に関係している内容をこちらに入れたものである。

森川主任 : このプロジェクトをやらないとどうなるのかという記述を含められると良い。個々のプロジェクトはそれぞれ重要なのだが、いずれプライオリティ付けをしなければならぬ。

加納構成員 : 「ICTを活用した双方向型の防災情報伝達システムプロジェクト」に関してだが、今後日本で大災害が起こることを考えると、もう少し短期的に実装していけるテーマもあるのではないかと。研究開発の時間軸を考えると確かに時間はかかるのだが、すぐに実用化していくものも少し盛り込んでどうか。

事務局 : 防災関係については、研究開発以外の利活用プロジェクトが総務省の原口ビジョンにも明記されているところであり、そちらで緊急の災害対策は取り組んでいくものと思われる。

加納構成員 : 原口ビジョンの中に入っている現時点の問題だけでなく、その一歩先にある問題を研究プロジェクトが支えていくということを入れられればよい。

田中構成員代理 : 「グリーン光ハイウェイプロジェクト」では消費電力1/10の光ルータを確立とあり、「ポストIPネットワークプロジェクト」では通信ネットワークの総消費電力量を1/100以下に削減としている。これらはうまく住み分けられているのか。また、「安心・安全な生活を支援するためのフルスペクトルセンシングプロジェクト」と「電波の有効利用を通じた地域活性化プロジェクト」の両者にセンシング技術で環境モニタリングするとなっているが、これらもきちんと住み分けられているのか。

事務局 : 一般論で言うと、技術課題が2箇所に出てくることはあり得る。プロジェクトは出口を意識して整理しているので、複数出口を持つ要素技術が出てくる。

事務局 : 「ポストIPネットワークプロジェクト」は「グリーン光ハイウェイプロジェクト」の技術が2015年に確立されていることを前提として、それらも含めた書きぶりにしている。

- 事務局 : 「電波の有効利用を通じた地域活性化プロジェクト」が出口として環境モニタリングにも貢献するというものであり、技術課題としては「安心・安全な生活を支援するためのフルスペクトルセンシングプロジェクト」とは全く違うものである。
- 森川主任 : 「電波の有効利用を通じた地域活性化プロジェクト」の個別技術が2013年あたりに実用化となっているが、やや早いのではないか。
- 事務局 : 現在の見込みではあるが、制度化に向けた視点も含めて実用化の矢印として書いている。つまり矢印の終わりを目途に、実用化に向けて取り組むということである。
- 森川主任 : であるならば、矢印をもう少し右に伸ばしてもいい。
- 加納構成員 : 全体の構成について、それなりに今後厳しいプライオリティ付けがされるであろう。これがなかったら本当に大変なことになるという何らかのメッセージを全体的に入れてはどうか。消費電力などは分かりやすく数字が入っていてよいが、3Dや超高精細映像はエンタテインメントに偏っており、遠隔医療に応用するなど社会的な責任を前面に押し出すことも必要ではないか。

(3) その他

各構成員に記入していただいた意見シートは、ロードマップのブラッシュアップ及び施策の見直しに活用することとなった。

以上